

東邦キャンパス

平成 26 年 (2014 年) 7 月 17 日

発行 学校法人 東邦学園

〒465-8515 名古屋市名東区平和が丘三丁目11番地

TEL 052 (782) 1241 FAX 052 (781) 0931

H P  愛知東邦大学
東邦高等学校



輝く 高校「国際理解」 生き生き 大学教育学部



海外の生徒に囲まれながら、楽しげにツルを折る大村秀章愛知県知事(上の写真中央)——。5月8日、東邦高校の国際理解教育を視察するため、来校されました。今年11月に名古屋市で開催される「ESD(持続可能なための教育)ユネスコ世界会議」を前に、本校がユネスコスクールへ加盟。さらに4月下旬から「4か国5校姉妹交流会」のホスト校を務めていたからです。= 4、6頁に関連記事

左の写真は、今春創設したばかりの愛知東邦大学教育学部の1年生が5月末、名東区内の小学校へ運動会のボランティアに訪れたときの1枚です。蓬萊小では入退場門のポールを固定する杭打ちで手にマメができたそうで、学生の姿からは、教師への道を歩み出した希望と決意が伝わってくるようです。= 2頁に関連記事

愛知東邦大学教育学部

始動

“育ち”の予感

教育学部長 古市 久子

愛知東邦大学教育学部が誕生しました。幼児教育コースでは、保育士資格と幼稚園教諭免許が取得でき、子どもたちを魅了する表現豊かな保育者を育成します。初等教育コースでは、小学校教諭免許と幼稚園教諭免許が取得でき、就学前の育ちを十分に理解した上で、幼小の連続性を意識できる教育者を育てようと船出した学部です。

新1年生の顔は輝いています。声も弾んで挨拶を交わしていきます。授業態度も熱心で、将来、保育者・教育者として育っていくのが楽しみな学生たちです。男子学生は45%になりますが、学生同士の仲の良さ、リーダーシップのとり方にもセンスが感じられます。愛知東邦大学の新しい学生文化の息吹を感じさせてくれる毎日に、教員の心も熱く燃えています。

名東区内小学校運動会の学生ボランティア

教育学部教授 今津 孝次郎

新しくスタートした教育学部では、1年生のときから学校・園・施設等の現場へ出かけて、ありのままの子どもたちや先生方と触れ合いながら体験学習を積み上げていく教育方法を取り入れています。さっそく5月31日(土)に名東区内5小学校で開かれた運動会に新生有志20人(男17・女3)が5つのグループに分かれてボランティアに参加しました。前日30日午後の会場設営から始まり、大勢の保護者が見守る賑やかな運動会当日には、開始から終了後の後片付けまで、さまざまお手伝いをしました。学生にとって運動会の裏方の仕事は初めてで、運動会がどのように細かく運営されているのかを具体的に体験して、学校の仕組みを実際に学ぶまたとない機会になりました。



写真上：

「運動会は楽しいです。」と語る学生ボランティア（高針小学校にて）

写真下：

教職員と同じオレンジ色のTシャツを提供され、閉会式の校長あいさつに聞き入る学生ボランティア（貴船小学校にて）

来年春、東邦高校普通科に 「人間健康コース」新設



2015年4月、普通科に健康・スポーツ分野を学ぶ新コースが誕生します。このコースの名称は「人間健康コース」といい、全国レベルのアスリートの育成をめざす専門性の高いコースです。

わが国では、2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されますが、今後スポーツの魅力や心身の健康に、ますます関心が高まるものと思われます。「人間健康コース」も、チームとして1つの目標に向かい、規律ある集団生活の中で励まし合い、支え合う人間関係形成の力を養い、人間として大きく成長できるよう文武両道をめざします。また特色として、愛知東邦大学人間学部人間健康学科との教育連携により、大学の先生から



健康、福祉、心理の知識や技能について学び、競技力の向上や卒業後の進路の可能性を広げるカリキュラムになっています。

初年度は、硬式野球部とサッカー部への志望者を対象に募集します。なお、商業科は2015年から生徒募集を停止します。商業科情報・経理・グラフィックデザインコースがこれまで取り組んできたキャリア教育等の優れた実践は、将来、普通科や美術科へと引き継いでいきます。

高校の行事

世界遺産を通して考える地球の未来 4か国5校姉妹校交流会

4月28日(月)、本校が提携する海外姉妹校から教員、生徒約30人が東邦高校に集合しました。2年に一度開催される4か国5校姉妹校交流会です。1997年に第1回を開催してから、今回は9回目となり、東邦学園創立90周年の最終事業と位置付けて行いました。

今回の姉妹校交流会のテーマは「世界遺産」でした。地球規模の問題に直面する世界遺産を通して、世界の高校生が地球の未来について考えようというプログラムです。各国の生徒たちは、1件ずつ自国の世界遺産を選んでプレゼンテーションを行いました。そして自分たちの地球を守り、次の世代につないでいくためには何ができるのかについてのディスカッションを行いました。

さまざまな国の高校生が一つの場所に集まって交流会を行う学校は珍しく、この例のない形の国際交流にマスコミも注目し、新聞報道やテレビ取材もありました。また、この交流会には大村知事の視察もあり、社会的注目度の高い交流会となりました。

この交流会が、持続可能な社会の担い手を育成するものとして今後も発展するよう努力していきたいと思っています。



1年生 学級合宿に行ってきました!!

1年生学年主任 高倉 清文



4団に分かれ1年生549人は、例年通り恵那峡と湯ノ山で4月23日・24日からそれぞれ1泊2日の合宿を行いました。天候に恵まれ全団とも

にプログラムを無事消化することができました。

初日の、校長講話では「高校生活の意義、高校生の生き方」を学び、東邦生としてどのように3年間を過ごし、自分の進路を見極めるのか、有意義な時間となりました。



クラスの皆と協力して火をおこし食べたバーベキュー、レクリエーションと夜の学習・HR、どれをとっても思い出深いものとなったと

思います。この合宿が3年後に生かせるように頑張りたいと決意を新たにしました。

2年生 歩いた、そしてよく食べた遠足

2年生学年主任 桜井 秀樹



2年生の遠足は、毎年雨にたたられることが多い行事でしたが、今年はテーマである健脚やバーベキューを楽しめる絶好の一日となりました。八曾、八風、宇賀溪のコースは、それぞれのキャンプ場までハイキングを楽しみ、目的地でバーベキューを行うというものです。妻籠・馬籠のコースはハイキングのみでした。バーベキューでは、事前に班やメニューを決めました。その話し合いが新しいクラス作り大いに役立ったようです。それぞれ楽しい一日を過ごし、大満足で、帰りのバスの中は皆眠りにつき、静寂そのものでした。

3年生遠足

3年生学年主任 濱砂 孝

4月24日(木)、快晴の日3年生は高校生活最後の思い出作りの一つとして三十三間堂～清水、東大寺～興福寺、彦根～長浜、伊勢神宮内宮の4カ所に15クラス、563人が出かけました。4月のクラス替えで新たな友人、仲間ができ友情と親交を育むためにクラス毎、班毎、友人毎に見学地、行き先を決め、それぞれの思い



を抱き各目的地を駆けめぐりました。集合時間になりバスに戻ってきた生徒達の尽きない思い出を語る言葉に喜び、嬉しさ、楽しさが溢れており、本当に来て良かったと感じました。楽しくも思い出深い最良の1日でした。

平成25年度 高校卒業式 明日への希望を胸に

第65回卒業証書授与式が、3月1日(土)に本校体育館にて挙行されました。当日は天候も良く、穏やかで卒業式にふさわしい日和でした。

体育館に在校生・教職員・卒業生の父母約500人が待つ中、卒業生533人が担任を先頭に整然と入場しました。式典は校歌斉唱より始まり、厳かな雰囲気の中で進みました。卒業証書の授与は、クラス代表者が責任感を表情に漂わせ、それを見守るクラスメイトは緊張の中に晴れやかな表情で自らの代表を見守りました。

在校生代表の生徒会長館初美さんの心温まる送辞が、卒業生たちの高校での思いをさらに深くさせました。さらに、卒業生代表の田中沙織さんの答辞は、入学時からの3年間に思いを馳せ、深い感動の中これからの自分たちの将来に向けて力強く進むことを宣言しました。

式後は、各教室で最後のHRが行われ、各担任による饒の言葉を受けて、クラスメイトとともに名残を惜しみました。その後中庭において、恒例となっている部活動の生徒や在校生による卒業生の追い出しが華や



卒業を祝って部活動の後輩たちに胸上げされる卒業生

卒業記念品は液晶プロジェクター1台



2013年度卒業生一同から卒業記念として液晶プロジェクター1台が学校へ寄贈されました。

かに行われました。卒業生は後輩に見送られ、3年間の思いを噛みしめながら校門を離れていきました。

平成26年度 高校入学式 高校生活に期待して

平成26年度の入学式は4月5日(土)に新入生549人を迎えて、本校の体育館で行われました。当日は春の日差しがそそぎ、その中で今を盛りと桜の花の満開の中、A組からN組までの14クラスに及ぶ生徒たちが、真新しい制服に身を包み誇らしげに校門をくぐりました。

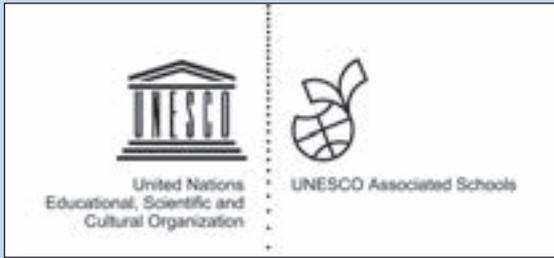


吹奏楽部が後輩の入学を祝って奏でる中、式典が始まりました。入学生は父母と隣りあわせて着席し、互いの表情はまさにその日の天候のように晴々としていました。長沼校長先生は式辞の中で、本校の創立者下出民義先生が掲げた「真に信頼されて事を任せられる人、社会に役立つ真面目な実業人を育てる」という理念や、「真面目」が校訓であることと、その目的にたつ本校の歴史に触れ、私立学校である本校の存在意義を分かりやすく語られました。

これに対して新入生代表の内村友香さん(上社中学出身)が「誓いの言葉」を述べ、新入生一同、心を新たにしていました。

式後、各教室で担任からクラス方針や高校生活における心構えなどについて話があり、新たな夢と希望をもつことができました。さらに玄関付近において、生徒会主催の新入生歓迎のイベントがなされ、父母ともども本校に入学したことを実感する時を持つことができました。

東邦高校はユネスコスクールの一員になりました



ユネスコスクールとは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校のことです。世界の9,000以上の学校がユネスコスクールとして認定されています。本校は今年

度の姉妹校交流会のテーマでもあった「世界遺産を通して考える地球の未来」で加盟申請しました。これまで本校が築き上げてきた姉妹校交流を活かしてプログラムを考え、国内ユネスコ委員会を通して、ユネスコ本部に申請書類を提出したところ、今年度4月、姉妹校交流会が行われる直前に正式な認定を受けました。

今、世界には環境、貧困、戦争と平和、エネルギーや食料などの様々な問題があります。東邦高校はユネスコスクールに正式加盟したことで、世界遺産を通して地球規模の問題を自分のものとして考え、持続可能な社会づくりの担い手を育成したいと考えています。

11月、 大学に新校舎完成！

「環境が変われば、学びも変わる。学生の勉学意欲を掻き立てるような空間づくり。」

現在、大学では4階建て新校舎の建築工事が順調に進んでおり、ほぼ外観が出来上がりました。建物中央には、大きな吹き抜けをはさんで、ゆったりとした大階段でつなぐ半階上りのスキップフロアとなっています。

現在の図書館と情報システムセンター(コンピュータ教室)、学修支援センターを融合した複合施設で、学生が共に学ぶスペースで、ガラス張りの開放的なフロアラウンジとなります。学生が共に学ぶ共有スペースで、自律的な学習を支援し知識の創造を促し、滞在型でコミュニケーションしやすい開放的な環境づくりや多目的に活動できる・見える化された個室を用意しています。

静粛で高度な文献何万冊も揃えた場を学生に提供しても、使われない空間では意味がありません。ラーニング・commonsにより、従来型の教育環境から脱却し、学生のさらなる就業力の向上と地域連携を深めていく新しいキャンパスの実現を迎えるようとしています。

大学キャンパスの中央に位置するシンボリックな新校舎には、学生の主体性を育むための多様な仕掛けづくりも重要だと考えています。

いよいよ11月下旬には完成ですので、ご期待ください。



撮影日 26年4月24日
基礎躯体工事状況



撮影日 26年5月2日
仮設構台解体状況



撮影日 26年5月7日
埋戻し状況



撮影日 26年5月13日
地盤改良/砕石敷完了(鉄骨工事開始前)

大学の行事

全員で盛り上がったスポーツ大会！

人間学部子ども発達学科4年 足立 遙



5月24日(土)に子ども発達学科のスポーツ大会が行われました。今年は去年までの内容とは違うものを作りたいと、私たち実行委員会を中心に提案をし、先生方の協力を得て、ドッジビー、綱引き、大縄跳びの種目を行いました。計画の段階では、限られた時間の中で話し合いや準備を行う大変さを感じ、新しいことを行うことはとても難しいことだと思いました。

当日は、1年生が団結する姿を見せてくれ、2年生は応援をがんばり、3年生は競技に精一杯取り組んでいました。4年生として最後のスポーツ大会でしたが、全員で盛り上がることができ、とても良い思い出になりました。来年以降も1年から4年まで参加して盛り上がる行事を続けていってほしいと思います。

教育実習の事前準備として 模擬授業を実施

中高教職課程委員 照屋 翔大

今年度は33人(経営学部8、人間学部23、科目等履修生2)が教育実習に臨みます。本学では、実習前指導の総まとめとして、保健と体育それぞれの「模擬授業」を行っています。今年は中学校・高校の教室を模した講義室も整備できたことで、より臨場感のある授業風景になりました。実施に当たっては、生徒役として3年生の教職課程登録学生に参加してもらい、授業の改善点をより幅広く考えられるよう工夫しています。

模擬授業をしてみると、事前準備の大切はもちろん、人に「教える」ということの難しさについて身をもっ



生徒役の学生の前で模擬授業を行う学生



走り高跳びの模擬授業

て知ることができます。ぜひこの経験を、本番の教育実習で活かしてほしいと思っています。

留学生交流会

学生課課長補佐 阪口 将史

4月9日(水)に学生会主催・留学生交流会を星が丘ボウルで行いました。

学生会が留学生と日本人学生とを均等にチーム分けし、ホウ・キン君の始球式で第一部ボウリングをスタートしました。ボウリングゲーム後は立食パーティーで参加者全員が交流を深めました。

当日は留学生と学生会・女子サッカー部・吹奏楽団・一般学生・教職員あわせて約100人が参加し大盛況でした。



名古屋グランパスとの連携開始！

6月8日(日)に豊田スタジアムで6年ぶりに名古屋グランパスファン感謝デーふれあいフェスタ2014が開催されました。

本学学生63人が運営ボランティアとしてイベントに



参加し、受付対応や各アトラクションでの誘導などを手伝いました。学生たちがクラブサポーターをもてなす姿はとてもさわやかで好印象でした。

今後、名古屋グランパスと協力し、インターンシップなど全学生を対象に様々な企画を展開していく予定です。貴重な社会経験の場になるため、学生のみさんの参加をお待ちしています。



グランパスから支給されたTシャツを着て、アトラクションの手伝いをする本学学生

平成25年度 卒業証書授与式



平成25年度愛知東邦大学卒業証書授与式が3月19日(水)に挙行政され、経営学部120人、人間学部81人が卒業しました。大学は新棟建築中のため、場所を名古屋国際ホテルにかえ、卒業式と卒業記念パーティーが華やかに実施されました。

卒業記念品

2013年度卒業生一同から卒業記念として液晶ディスプレイ3台、ディスプレイスタンド3台が大学へ寄贈されました。

平成26年度 入学式



参加者全員で大学校歌を合唱

4月5日(土)、大学学生ホールアリーナにて入学式が挙行政されました。

本年度の新入生337人が、新しく始まる大学生活に期待を膨らませて祝辞に耳を傾けました。式の後半では、昨年完成した大学校歌を在学学生が導き、入学式に参加した全員で大合唱しました。

入学式後は学科別に分かれ、ガイダンスや懇親会で新しい仲間たちと交流をはかりました。



海外留学

人間学部2年 齊藤 葉理

フィリピンとニュージーランドの2回の留学を体験しました。

留学を通して、人種の違う人とコミュニケーションをとることの難しさ、自分の思いを伝えることの難しさを改めて実感しました。

ニュージーランドではホームステイということもあり、なかなか思いを伝えることができず苦戦の日々でしたが、ホストファミリーはそんな私の言葉を必死に理解してくれようとし、さらに一緒に英語の勉強を手伝ってくれました。おかげで気持ちも楽になり、今ま

で以上にコミュニケーションをとれるようになりました。

学校生活では、なにもかも英語だらけという環境についていくことに必死でしたが、クラスメイト

と馴染んでいくにつれて教えあうこともでき、留学ならではの学校生活を味わうことができました。



フィリピンの修了式の様子

就職

合宿して「自己表現力」みがく

就職課

愛知東邦大学独自の取り組みとして2009年度より実施してきた就職合宿も今回(2014年2月～3月実施)で5回目となりました。



今回のテーマは「自己表現の実践」とし、開催地を名古屋市市内に移し就職先の希望分野や活動状況等をふまえたグループごとのワークを初めて導入するなど、これまでの学生からの要望や改善点も踏まえ、内容を一新させました。

1泊2日という短期集中型のプログラムとして学生にとっては貴重な学びの2日間となり、「参加してよかった」といった声を数多く聞くことができました。この機会をぜひ実践の場で活かし、1人でも多くの学生が早い時期に内定が決まることを願い、今後も引き続き支援をしていきたいと思えます。

就業力育成 就業力マイスター奨学生

学修支援センター

愛知東邦大学では、学生に勉学や課外活動などを通じて「就業力」を向上させた学生に奨学金を支給する「就業力マイスター奨学生制度」を設けています。

この制度は、学生自らの意思でエントリーした後、学業成績および地域活動あるいは大学の様々な活動などに参加することなど定められた条件を満たした上で、

年度末での審査により奨学金が給付されるものです。

4月には41人の学生が2014年度の奨学生として選ばれました。

制度が運用されて4年目を迎え、学生にも浸透しつつあります。学生の努力で手に入れられる奨学金のためか、根強い人気がある制度となっています。

クラブ活動 高校

空手道部

インターハイ6種目のうち 5種目獲得!

空手道部部长 村田 悟



3月は全国選抜大会組手2種目出場。5月女子団体組手3年連続20回目、男子団体組手は2年ぶり19回目の千葉インターハイ出場を勝ち取りました。

今回は異例のことながら一人・1つの挿話をもって

報告とします。選抜大会個人組手出場を果たした櫻井は県予選前に不運にも骨折。予選初日激痛に堪えて出場。大会ドクターからはストップが…。2日目個人戦は棄権し、団体戦の一戦に賭けました。やはり思うようには身体は動かないが、1ポイントを獲得しました。その1ポイントを守り、戦い抜いて一勝となりました。5人で競う組手団体戦。この一勝は、主将・伊豆原の快勝とともに万重のものとなりました。彼の怪我は男女ともども仲間に危機意識をもたらし、かつ奮い立たせたと言っているでしょう。女子個人組手のベスト8は7人東邦。女子個人1位山口・2位早川ゲット。男子個人組手1位も須藤が獲りました。女子個人形も1年加藤が優勝。これは現・井内コーチ以来の快挙。終わってみればインターハイ種目6つのうち5つが東邦に。貫名監督就任2年目にしての大きな飛躍となりました。「空手だけ強くなっても何にもならない。人として成長せよ」との日々の教えは彼らの中に根付いてきました。さらに言葉を継げば、父母の会の支え、多くのOB・OGの方々の直接間接の援助は何をか言わんや。この紙面をお借りして心よりお礼申し上げます。

ダンス部

『American Dance / Drill Team National Championship』を終えて

ダンス部顧問 伊藤 恵子



3月、日本代表としてHIP HOP部門で、TOHO HS BOYS(3年生6人、2年生、2人計8人)とTOHO HS GIRLS(3年生10人、2年生3人、計13人)の2チーム出場してきました。カテゴリー別で、男子はOB作品「Invader Baby」5位、女子はOG作品「Kung-fu SOUL」2位を獲得することができました。



今後も、支えてもらっている方々に魅力的なパフォーマンスを届けることができるようにみんなで努力していきます。ご支援ありがとうございます。



硬式野球部

夢の舞台へ

硬式野球部3年マネージャー

藤川 千夏・石原 あゆみ

私たち硬式野球部は、マネージャーを含め100人のチームです。秋・春の県大会では、悔しい思いをしましたが、その悔しさを糧にチームの合言葉「どん底からのっぺん」を胸に日々の練習に取り組んできました。

チームの良さは、粘り強さと最後まで全員があきらめない気持ちを持っていることです。全員が全力で一球一球プレーをし、どんなに辛い練習も仲間とともに励まし支えあいながら乗り越えてきました。個々の能力がチームとして、ひとつになることによって自分自身の持っている力が最大限に発揮することができます。この夏にかける思いは、他のどのチームにも負けません。最後には、笑顔で夢の舞台への切符を全員でつかみ取りたいです。



VS東海学園高校で勝利し喜ぶ選手たち

全国大会出場2枠を争う愛知県予選の決勝リーグは第2節を終えて、4チームが1勝1敗で並ぶという大混戦。勝者が全国切符を獲得する最終節で東邦高校サッカー部は東海学園高校を1-0で下し、3年ぶり8回目の全国大会出場を決めました。試合は東邦の積極的なディフェンスが相手の攻撃を封じ、前半にFW西村(3年)の打ったシュートが相手ゴールに突き刺さり、勝負を決めました。当日はバトン部を始め学校から多くの応援をいただきました。この大一番での勝利は、東邦高校の総合力が相手を上回った勝利ではないかと思います。

目指すは全国ベスト8、プリンスリーグ東海などで培った経験を活かし、“東邦魂”を全国大会で見せたいと思います。

サッカー部

全員で勝ち獲った全国切符

サッカー部顧問 澤田 洋平



吹奏楽部

イオンジャック!

吹奏楽部顧問 白谷 峰人

2014年6月8日(日)。晴天。有松絞り祭りの一環である吹奏楽イベントに出演しました。旧街道での



パレード、有松駅前ロータリーでのパフォーマンス、出演者全員での合同演奏と盛りだくさんのプログラムで街中に音楽が溢れる一日となりました。



ロータリーでのパフォーマンス時には前後の出演者との兼ね合いもあり、巧みなMCに乗せられ予定外に多くの演奏をさせていただきました。



中でも特筆すべき本番は、有松駅に直結している「イオンタウン有松」内でのパフォーマンスでした。16人の選抜メンバーで午前と午後1回ずつ、サプライズでイオン内1階から3階まで店内をパレードし2階のちょっとしたスペースでパフォーマンス。大いに盛り上がりました。このイオン内パフォーマンスでお客様の拍手と歓声・笑顔を感じ、再度音楽の楽しさ、音楽の力というものを実感できました。

楽しい本番でした。

偶然店内に居合わせたお客様、突然のパレードに気づき追っかけをしてくれた保護者の皆様、暖かい拍手と歓声・笑顔をありがとうございました。

YouTubeで『イオンジャック』と検索するパフォーマンスの様子をご覧くださいませ^_^

水泳部

第65回浜名湾高校生選手権大会に参加して

水泳部顧問 後藤 洋輔

5月31日(土)・6月1日(日)に開催された浜名湾高校生選手権大会に今年も参加してきました。今年度初めての公式戦です。公式戦は5月に行った合宿とは違い、様々な角度から多くの人たちが選手一人一人を評価します。東邦高校のユニフォームを着ることは、誇りであると同時に責任を背負うこととなります。挨拶はもちろんのこと、身だしなみ、会場での過ごし方など、競技の成績だけではなく、色々な角度から評価をされるわけです。本当の良い結果をだすためにはどうしたら良いのかを常日頃から選手自身が考えることが必要です。

競技成績は惜しい結果でしたが、その後の練習に今回の経験が活かされている部分を感じました。これからもご声援よろしくお願ひします。



「試合だ！いくぞ！！おー！」



クラブ活動 大学

硬式野球部

愛知大学野球 春季リーグ戦2部Aリーグ 善戦！2位決定！

硬式野球部部长 深谷 和広

平成26年春季リーグ戦は4月5日開会式から5月29日閉会式の期間で行われました。横道監督の指揮の下に野球部部員一丸となって2部リーグ優勝、1部入替戦を目指しました。その結果、リーグ戦10戦、7勝、3敗、2部Aリーグ第2位となりました。春季2部Aリーグ戦期間中、硬式野球部への温かいご支援、ご声援ありがとうございました。



現在、野球部一同、平成26年秋季戦での2部リーグ優勝、1部昇格目指して、日々夏の暑い中グラウンドで野球練習に取り組んでいます。また野球だけではなく学校生活の模範生となるよう励んでいます。部員全員で1部昇格を目指します。これまで以上に硬式野球部への温かいご支援、ご声援のほどよろしく願います。

男子サッカー部

東海1部昇格をめざして

人間学部人間健康学科1年 馬塚 貴之

男子サッカー部は藤川監督の熱いご指導の下、日々トレーニングに励んでいます。私たちは東海学生サッカー連盟に所属しています。目標は東海学生サッカーリーグ1部に昇格することです。2部に上がって4年目で現在は3勝1敗で2位と昇格圏内を狙える位置にいます。前期残り5節を確実に勝利し、後期に繋げて



いきたいと思います。去年1部に上がれなかった先輩たちの悔しさを忘れることなく、監督やスタッフ、選手がチーム一丸となり、目標を成し遂げられるよう努力し続けます。

また、サッカーだけでなく学校生活でも模範になるよう心掛けています。そしてサポートしてくださる全ての人たちに感謝することを忘れず生活していきたいと思っています。

女子サッカー部

「感謝」を忘れず「日本一応援 されるチーム」に

人間学部子ども発達学科4年 田中 菜月

女子サッカー部は今年で創部8年目を迎えます。まだ浅い歴史ではありますが、先輩たちが築きあげてきたものを大切に1日1日の練習に励んでいます。

一昨年、悲願のインカレ出場を果たしましたが、昨年度は出場できず、東海リーグや選手権でも目標を達成することができませんでした。しかしその中で、家族や友達、地域の方々、学校関係者の皆様、多くの方に応援していただき、周りの温かさを改めて実感しました。



新メンバーを含めたお花見

今年度は、インカレ出場を最大の目標とし、東海リーグ1部昇格、選手権優勝も目標に掲げています。昨年度の成績を上回れるよう練習に励んでいます。

また私たちは部活動だけでなく、日々の学校生活や地域活動にも貢献し一人でも多くの方に応援されるように、愛されるようにという意味をこめて「日本一応援されるチーム」を目指してきました。今年度も学校生活や地域活動等、積極的に行き皆様に応援していただけるようなチーム作りをしていきたいと思っています。

私たちのモットーである「感謝」を常に忘れず、支えてくださる皆様に恩返しの意味を込めてチーム全員で精一杯努力してまいります。

今年度も温かいご指導、ご声援よろしくお願ひします。

吹奏楽団

「わくわく新生活!!」

人間学部子ども発達学科4年 壺井 ひろこ

こんにちは。愛知東邦大学吹奏楽団グリーンピースです。

今年度は新入団員3人を迎え、計17人で活動しています。

5月には名東の日に参加させていただきました。本番では自分達の演奏時間とは別枠で、東邦高校の吹奏楽部とコラボ演奏をさせていただきました。

とても暑い日でしたが、大人数のフレッシュな高校生と一緒に演奏することでとても良い経験となりました。6月には、フレンズ・TOHOの懇親会で演奏させていただきました。



こういう経験を、夏に行われる長野県での売木村コンサートや定期演奏会に生かしていきたいと思っています。個性が強くとどめるのが難しい団ですが、その個性

を生かしお客様の心をわし掴みできるような吹奏楽団に成長していきたいと思っています。皆様応援よろしくお願ひいたします！

男子バスケットボール部

夏の大会にむけて

男子バスケットボール部監督 柴田 千登勢

2014年度は、12人の1年生を迎え、選手18人とマネージャー4人の総勢22人となりました。現在は、夏の東海学生バスケットボールリーグ戦で1つでも多く勝利するよう練習に励んでいます。



フットサル部

フットサル部3代目ユニフォーム完成!

フットサル部顧問 松井 慶太

創部8年目に突入し、第3代のユニフォームが完成しました。学園カラーの緑を基調に部員が作成しました。

6月14日(土)から2014年度リーグ戦が開幕し、新ユニフォームをまとって戦っています!

初の入替戦進出を目指して頑張りますので、応援よろしくお願ひします!



大学生協学生委員会

よりよい学生生活を支援

大学生協学生委員長 松永 倫紀



大学生協学生委員では「よりよい学生生活をするためのサポート」を目標に、学生同士で様々な企画を考え、運営しています。時には大学を飛び出し、他大学とも積極的に交流しています。日々ディスカッションをしながら企画を計画、運営し、その内容を人前で積極的にプレゼンという形で報告を行うことで、社会性も磨いています。

企画の一つとして、毎年新学期には、新1年生によりよい学生生活のスタートを切ってもらうために、新入生歓迎会を行っています。社会で必要となるPDC Aサイクルをゲームにしながら楽しく体験するなど、学生のうちに身につけておくべきスキルを体験し、学ぶことができるようになっています。今後も皆さんの学生生活がより楽しくなるよう活動していきます。

大学でワールドカップ観戦

6月20日(金)のワールドカップ第2戦は日本×ギリシャの試合でした。

経営学部大勝ゼミの学生が準備をし、カフェテリアで日本×ギリシャの試合観戦をしました。朝7時から授業が始まる9時まで学生や教職員が集まり、日本を応援しました。



NAGOYA 学生キャンパス「ナゴ校」

愛知東邦トレーナー組織も出店！

本学の学生が委員長を務める「NAGOYA 学生EXPO2014」が5月24日(土)25日(日)名古屋市中区のテレビ塔を拠点に開催されました。これは『学生と社会をつなぐプラットフォーム』を合言葉に、地元の学生が主体的に地域社会と関わりながら、名古屋の盛り上げや魅力向上につなげるための取り組みを実践するものです。

本学のATTO(愛知東邦トレーナー組織)も首・肩のリラクゼーションブースを出店しました。



1.事業概要

2013年度は学園創立90周年という節目を迎え、長い歩みを感じの気持ちで振り返りつつ、その存在を内外へ改めてアピールする機会とした。創設者のメッセージを深く刻み、100周年に向けて学園が時代の要請に応え得るよう、充実と新たな展開を図った。

90周年記念として、10月の記念講演会、式典と感謝の集いを頂点に、様々な催しが行われた。記念誌の作成を進め、「下出民義自傳」を復刻した。大学は校章を決めて、校旗を制作した。校歌は学生からイメージを募って作詞・作曲した。開校13年目にして、愛校心を表わす標章を定めることができた。

教育面では、大学が教育学部新設に関して、諸官庁への手続きを計画通り終え、2014年度の開設を実現させた。高校は全国に誇れるスポーツの伝統を生かし、高大連携にも適う人間健康コースを普通科に新設する準備を進めた。社会的需要が後退する商業科は募集停止を決めた。他方で、名古屋グランパスと提携を結び、教育を地域との連携の中で進める新たな体制も導入した。ハード面では、校舎の耐震化とリノベーション、新たな発想による学びの場となるラーニング・コモンズ棟の建設を進めた。

いま学園は、来校者から「生徒、学生が次々あいさつしてくれる」と褒められる。高校は推薦入学志願者が増え、2004年(673人)以来、県下最多の新入生651人を迎えた。大学もマナーと受験産業による評価が向上に転じている。

「もっと選ばれる学校へ充実させるには」――。本報告は1年間の歩みを「計画」「結果」「評価と課題」に整理し、新たな前進と充実に資するものとする。

学園全体としては、将来ビジョンを明確にして組織的に進む方向を示す中期事業計画(戦略マップ)を策定した。教職員の取り組むべき具体的な事業を整理し、財政計画との連動も図ることとした。また、高大連携の充実や地域貢献、キャンパス構想の促進を主な事業として展開した。加えて、(株)名古屋グランパスとの教育提携や名古屋市との連携事業の検討など、当初の計画には掲げていなかった事業も、新たに開始する年度となった。

大学では、2013年度は大きく、大学再編、就業力育成を含む教育改革、第2期耐震工事に伴うキャンパス・リニューアル、という3つの課題に取り組んだ。特に新棟ラーニング・コモンズについては、新しい学びの場としての運用を詳細に検討して、設計にも反映し、本学の教育も大きく変えようとしている。多くの課題は残るものの、改善された事項も多い。

高校では、今年4月に「ユネスコスクール」への加盟が正式に承認され、ESD教育(持続可能な発展のための教育)を推進する。時を同じくして開催した「4カ国5校姉妹校交流会」は、90周年記念の最終行事として位置づけ世界遺産をテーマに企画したが、大村愛知県知事が視察に来校したりメディアに取り上げられたりするほど注目を集めるものとなった。これらは、これまで本校が取り組んできた様々な教育実践が一つのかたちに結実したものであり、けっして急ごしらえでつくったものではない。国際交流(異文化理解)・文化財保護・環境やエネルギー教育などの分野も試行錯誤しながら一定の時間を費やしてきたものである。

これからも、近年進めてきた制度改革や日常的な指導へのPDCAサイクルによる改善と合わせて、社会の変化や時代のニーズを把握しながら、特色ある教育づくりを進めることが重要である。100周年に向けた新たな教育づくりのための学科再編の議論は、最終的に普通科「人間健康コース」の新設と、長い歴史をもつ商業科の生徒募集停止の決定に至った。明るさが戻りつつある生徒募集だが、私学にとっては15歳人口の減少や公立志向という厳しさが続く。これに対応するため、募集対策の「特任教頭」の配置を含め涉外分掌の改革を行い次年度に臨む。

2.財務の概要

消費収支によると、2013年度の帰属収支差額は1億4,998万円の収入超過となった。基本金組入後の消費収支差額では、3億6,755万円の支出超過となった。

帰属収入は、前年度を3億3,214万円下回る31億4,505万円だった。2012年度は大学の第1期キャンパス整備耐震改修による国庫補助金5億1,690万円があり、この有無が大きい。

学生生徒等納付金は前年度を1億3,835万円上回った。学生生徒数(2013年5月1日)は2,944人。前年度比で高校が126人、大学も55人増え、全体で181人増加したためである。

寄付金は、目標の4,500万円には至らなかったが、前年度より2,256万円増の3,722万円となった。

第1号基本金組入額は5億1,754万円となった。大学のキャンパス第2期耐震改修工事の建設仮勘定、高校・大学の共有サーバなどの購入による組入れ4億8,209万円と借入金返済による組入れ4,785万円の5億2,994万円、除却で1,240万円取り崩したためである。

消費支出は2012年度より2,717万円減の29億9,506万円となった。

人件費は2,571万円増の19億584万円、教育研究経費は2,988万円減の8億7,434万円だった。減少は2012年度大学耐震改修等に伴って増加した修繕費との差異である。学園創立90周年事業経費により、管理経費が増加した。

収入および支出の大科目の割合について、収入では図1のように学生生徒納付金収入が65.4%、補助金収入29.8%と収入全体の95.2%を占めている。また、支出では図2のように人件費が全体の63.6%を占めているが、教育経費が29.2%であり、帰属収入総額に対しては27.8%と目標どおり教育研究活動に必要な経費支出を行っている。管理経費は6.3%、帰属収入総額に対しては5.95%と予算方針で示した6%以下となった。

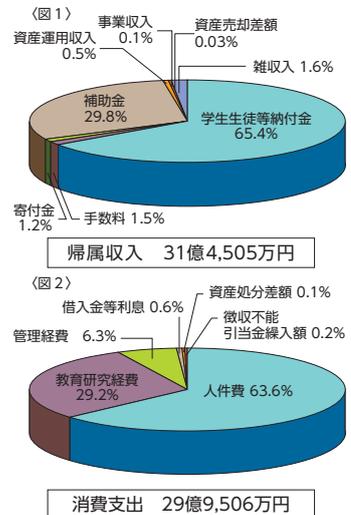
資金収支でみると、収入は2013年度新入生の入学時納付金等の前受金等を含んで40億7,545万円。前年度から繰り越した11億206万円を加えて、合計51億7,752万円となった。

支出は人件費、教育研究経費、管理経費、借入金返済、施設・設備関係支出等40億9,504万円であり、差し引き10億8,247万円を次年度へ繰り越した。繰越支払資金は2012年度末より1,958万円減少した。

貸借対照表によると、2013年度末現在の資産総額は104億9,725万円となった。内訳は有形固定資産75億4,456万円、その他の固定資産16億1,484万円および流動資産13億3,784万円となり、6億8,952万円減少した。他方、負債も8億3,951万円減少した。長期借入金が2億5,923万円減少、国の補助金実際に交付されるまでのつなぎ融資を返済して、短期借入金も5億6,668万円減少した。

基本金は110億1,550万円、そのうち校地・校舎・機器備品・図書など教育・研究に必要な資産の自己資金調達額を示す第1号基本金は5億1,754万円増加して、106億1,060万円となった。

繰越消費支出超過額は、本決算での3億6,755万円の消費支出超過により2013年度末では32億8,428万円に増加した。



2013(平成25)年度 東邦学園の事業報告

2013(平成25)年度 資金収支計算書

(単位：円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	2,061,451,000	2,055,391,150	6,059,850
手数料収入	46,342,000	46,357,084	△ 15,084
寄付金収入	45,400,000	34,743,284	10,656,716
補助金収入	919,910,000	936,002,767	△ 16,092,767
国庫補助金収入	162,590,000	178,317,417	△ 15,727,417
地方公共団体補助金収入	757,320,000	757,685,350	△ 365,350
資産運用収入	17,785,260	16,901,365	883,895
資産売却収入	200,000,000	200,997,260	△ 997,260
事業収入	3,666,000	3,336,655	329,345
雑収入	33,802,000	48,844,134	△ 15,042,134
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	357,600,000	373,436,500	△ 15,836,500
その他の収入	855,533,702	856,194,093	△ 660,391
資金収入定額調整勘定	△ 444,227,000	△ 496,746,788	52,519,788
前年度繰越支払資金	1,102,066,605	1,102,066,605	-
収入の部合計	5,199,329,567	5,177,524,109	21,805,458
人件費支出	1,898,352,509	1,898,352,509	0
教育研究経費支出	511,896,000	489,801,245	22,094,755
管理経費支出	204,007,000	182,344,187	21,662,813
借入金等支出	19,407,559	19,407,559	0
借入金等返済支出	825,930,000	825,919,132	10,868
施設関係支出	354,645,061	354,645,061	0
設備関係支出	136,800,117	136,800,117	0
資産運用支出	197,335,000	196,660,153	674,847
その他の支出	33,239,472	33,239,472	0
〔予備費〕	23,284,039 6,715,961		6,715,961
資金支出定額調整勘定	△ 35,618,000	△ 42,123,649	6,505,649
次年度繰越支払資金	1,046,618,888	1,082,478,323	△ 35,859,435
支出の部合計	5,199,329,567	5,177,524,109	21,805,458

2013(平成25)年度 消費収支計算書

(単位：円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	2,061,451,000	2,055,391,150	6,059,850
手数料	46,342,000	46,357,084	△ 15,084
寄付金	46,284,000	37,223,986	9,060,014
補助金	919,910,000	936,002,767	△ 16,092,767
国庫補助金	162,590,000	178,317,417	△ 15,727,417
地方公共団体補助金	757,320,000	757,685,350	△ 365,350
資産運用収入	17,785,260	16,901,365	883,895
資産売却差額	0	997,260	△ 997,260
事業収入	3,666,000	3,336,655	329,345
雑収入	33,802,000	48,844,134	△ 15,042,134
帰属収入合計	3,129,240,260	3,145,054,401	△ 15,814,141
基本組入額合計	△ 499,782,000	△ 517,545,597	17,763,597
消費収入の部合計	2,629,458,260	2,627,508,804	1,949,456
人件費	1,909,793,810	1,905,842,116	3,951,694
教育研究経費	898,249,000	874,348,909	23,900,091
管理経費	209,144,000	187,257,424	21,886,576
借入金等利息	19,407,559	19,407,559	0
資産処分差額	2,651,148	2,651,148	0
徴収不能額	5,559,200	5,559,200	0
〔予備費〕	5,714,907 24,285,093		24,285,093
消費支出の部合計	3,069,089,810	2,995,066,356	74,023,454
当年度消費支出超過額	439,631,550	367,557,552	
前年度繰越消費支出超過額	2,916,723,886	2,916,723,886	
翌年度繰越消費支出超過額	3,356,355,436	3,284,281,438	

2013(平成25)年度 貸借対照表

(単位：円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
資産の部			
固定資産	9,159,409,412	9,029,091,928	130,317,484
有形固定資産	7,544,564,844	7,440,429,326	104,135,518
その他の固定資産	1,614,844,568	1,588,662,602	26,181,966
流動資産	1,337,843,699	2,157,690,295	△ 819,846,596
資産の部合計	10,497,253,111	11,186,782,223	△ 689,529,112
負債の部			
固定負債	1,973,630,533	2,225,379,726	△ 251,749,193
流動負債	792,395,373	1,380,163,337	△ 587,767,964
負債の部合計	2,766,025,906	3,605,543,063	△ 839,517,157
基本金の部			
第1号基本金	10,610,608,414	10,093,062,817	517,545,597
第3号基本金	217,900,229	217,900,229	-
第4号基本金	187,000,000	187,000,000	-
基本金の部合計	11,015,508,643	10,497,963,046	517,545,597
消費の部			
翌年度繰越消費支出超過額	3,284,281,438	2,916,723,886	367,557,552
消費収支差額の部合計	△ 3,284,281,438	△ 2,916,723,886	△ 367,557,552
負債の部、基本金の部及び消費収支差額	10,497,253,111	11,186,782,223	△ 689,529,112

100周年への新たな一歩の年に

理事長 榊 直樹

私たちは2013年度、学園創立90周年の節目に際して、これまでの歩みを感謝の念で振り返ると共に、100周年に向け誓いを新たにしました。未だ経験したことのない困難な時代に突き当たっても、学園が揺るぎない基盤のもと、今以上に社会的役割を果たすことである。2014年度は、そのための足場を築き、新たな一歩の年度としたい。

第一は、建学の精神のもと、教学活動の充実という原点を改めてかみ縮めることである。授業・講義、課外活動は充実・満足度が高まらなければならない。「授業がよく分かり」「探究心が芽生え」「仲間との活動がより楽しく」なるよう、教員・職員が研鑽を積み、力量を向上することである。しかも個々のベクトルを揃える必要がある。生徒・学生数が受入れ側を上回り、公的支援も右肩上りという時代は再来しない。制度や対応が前例踏襲ではないか、問い直す必要がある。眼の前の成功や安堵感に浸ったままでは、挽回不可能となる。

第二は大学、さらに高校も強く求められる「質の保証」である。外部の眼に耐えうる学園かどうか。

大学は情報公開があらゆる面で求められ、「大学ポートレート」や、世間のランキング等の指標に否応なくさらされている。入試状況から始まり、学びを引き出す努力、最終的な出口では就職率だけでなく、学生が身に付けた学力、コミュニケーション能力、仕事への情熱といった多角的観点から「質の保証」に厳しい目が注がれている。

高校も数年先をめどに、達成度テストの導入を政府与党が検討中である。推薦で過半数を受け入れる私立高校にとって、大学進学へ高過ぎると映るハードルが設けられれば、東邦高校も教学活動を洗い直し、備える必要がある。

学園の評価が学力を唯一の物差しに下されるのなら、異議を唱えたい。私学には建学の精神に基づく教育観がある。ただ、達成度テストの如何にかかわらず、大学と高校の「質の保証」が、学園の死命を制しかねない課題であることは受け止める必要がある。

第三は、極めて厳しい少子化の到来である。終戦直後に生まれた団塊世代は260万人にのぼったが、現在の18歳は120万人台である。下降はなだらかだが刻々と続き、数年先には110万人を割る。創立100周年の頃には、100万人割れが目前であろう。

学園は歴史を絶やさず、誇りを保ち続けたい。新たな事業に取り組む努力が不可欠となる。15~22歳にとどまっている教学活動の対象年齢を大きく拡げ、メニューやサービスを多様に展開することである。教育機関側が、生徒や学生を選別できる状況ではなくなりつつある。新たな発想も加えてニーズを引き出し、需要を喚起することである。

【主な取組み】

1. 学園全体のPDCAサイクルの確立・運用

(1) 経営政策

① 学園としての経営目標の達成

・事業計画の着実な達成

経営計画は各目標について、部門ごとの個別目標と、施策・事業を着実に達成するため、事業計画の立案時期と策定ルール等を見直す。各年度予算は決算時において、予算執行実績の妥当性や乖離を分析し、理事会に報告したうえで、次年度予算編成に反映させる。

・中期計画中間の見直し

今年度は2012年度からの中期事業計画と財政計画の中間年度に当たる。過去2年間の実績と今後の展開を見通して、事業と財政両面から計画後半の見直しを行う。

② 新たな事業展開

- ・「学童保育・子育て支援」事業
- ・社会人が教職課程を学べる夜間開講の検討
- ・大学院設置を見通した研究活動と人事計画
- ・新たな学びの充実へ柔道整復師の養成コースなどを検討

(2) 進行管理

① 学園および設置校の取り組みの進捗状況を「成果」を中心にとりまとめ、学園内外の関係者の意識共有を図る

・施策・事業別指標の整備

本学園では、事業が計画通りの日程と質が保たれてい

るかを確かめ、必要に応じて改善を図る「評価・改善の仕組み(PDCAサイクル)」が確立していない。机上の議論には時間をかけるが、実施段階での課題の発見や改善等は不十分であり、高価な施設設備が有効活用されないケースもある。戦略と定めた目標に向けて実現を図るツールとして、施策・事業別指標の基準を作成する。IR(Institutional Research)を活用し、教育プログラムの自己点検・評価が実施されるよう教学組織を定期的に支援する。

2. 学園全体が一体感を持てる運営

(1) 設置校連携

① 「7年間教育プログラム」の策定と展開を核に、「東邦学園スタンダード」を確立する

・「7年間教育プログラム」の推進

大学は教育学部設置に伴い、志願と入学、教育力の現状に合わせて定員を見直す。高校の学科・コースの再編と合わせて、大学と高校が隣り合う利点を生かして、「7年一貫」の観点から、連携できる教育プログラムを策定し、推進する。

(2) 資源管理

① 将来構想や中期計画と連動した財政、人事、施設計画を一体的に運用する

・施設計画の策定と運用(キャンパス構想)

大学キャンパス整備計画第2期工事を進め、高校の新课程に必要な施設・設備を計画する。そのため中期事業・財政計画と単年度計画や予算との連動、予算執行状況を四半期毎に把握し、資金管理を徹底する。

・対話し、振り返りながら進める「協働」と「人づくり」

学園の存否は、教職員の力量にかかっている。さらに協働、連携を通じて、より大きな力を生む。

大学には自己点検・自己評価制度があるが、職員は本学の「人材育成計画」が、新たに私立大学等経常費補助金特別補助の未来経営戦略事業(2013~2017年度)に採択された。学園のもう一つのエンジンとなるよう、計画に基づいて人材育成を進める。生徒・学生の置かれた生活環境がより複雑化する中、教員間の協働が不可欠である。高校、大学それぞれ大括りの目標を据えて、対話と振り返りを重ねながら、協働を進め、人材育成に努める。

3. 学園経営基盤の強化

(1) 財政基盤

① 寄付金活動の強化により、「東邦ファン」による財源を拡充する

・卒業生や学園関係者の関係深化と、寄付金募集の強化

100周年記念事業として、フレンズTOHO企業や同窓会、後援会等と連携し、寄付金募集体制を整え、経営目標である寄付金収入2,000万円以上を実現する。

学園の発信力を高め、一体感を深めるため、高校のPTAと東邦会、大学の後援会と邦友会、フレンズTOHOを包含する「大フレンズTOHO」の構想を検討する。

小口募金制度を創設し、継続的な寄付を目指して仕組みの設計をする。

(2) ブランド戦略

① 地域連携・社会連携を充実させ、社会や地域における「生涯を通じた学びの場」としての存在意義を強化する

・地域・社会連携の充実

地域連携・社会連携を拡充させ、地元学区、名東区などと大学・高校が結びつきを深めて、「地域の知の拠点」であり、「生涯を通じた学びの場」となれるよう、計画と具体化を進め、地域等と協定を締結する。名古屋グランパスエイトとの教育提携を最大限に生かし、事業を展開する。

(3) ガバナンス

① 「公器」としての学園の経営力を強化する

・理事の職務内容の見直し

理事会における経営監督機能をより充実するために、BD活動を推進するとともに円滑な組織運営を目指して、理事の職務内容を見直す。

2014(平成26)年度 東邦学園の事業計画

【収支予算の概要】

1. 予算編成方針

学園は、持続可能な財政構造を大前提とする。2014年度当初予算は、第1期中期事業計画(2012～2016年度)に示した大学・高校・法人各部門の事業計画骨子の重点実施事項に基づき、教学経営活動の推進を財政面から裏づけるものとする。

具体的には、本学園「第3次中期財政計画」(2012～2016年度)と、日本私立学校振興・共済事業団の未来経営戦略補助金申請書に明記した「経営改善計画書(消費収支シミュレーション)(2013～2017年度)」など中期計画との整合を図り、消費税率の引き上げや文科省の私学関係予算、県の私学振興政策などの動向を踏まえて設計する。

収支は大学・高校それぞれの部門で均衡を保つこととし、学園全体において帰属収支差額が収入超過(帰属収支差額比率5%以上)となるように組む。法人経費の部門別の割合は、2013年度と同じく学生生徒・教職員数に基づく按分と、高校から大学への内部進学者数を考慮した傾斜配分と

する。

予算編成上の積算条件は、次のとおりである。

2. 予算の要旨

2013年度に比べて予算上大きく変動する項目は、収入が、主に大学で学生増による学生納付金と、補助金が校舎の耐震化補助によって増える一方、寄付金は創立90周年記念で多額となった2013年度に比べて下回る。帰属収入は総額約2億2千万円増加する。支出では、第2期キャンパス整備計画による耐震改修および新棟(ラーニング・コモンズ)の建築と、教育学部の開設による人件費の増加で、消費支出も1億700万円膨らむ。

帰属収入からは、第1号基本金として、キャンパス整備施設設備や借入金返済により法人部門210万円、大学部門12億1,791万円、高校部門4,615万円、計約12億6,600万円を組入れる予定で、消費収入は約21億1,783万円となる見込み。

一方、消費支出は31億7,618万円の見込みで、人件費、教育研究経費、管理経費の3科目で合計30億9,212万円、

2014(平成26)年度 資金収支総括表

(単位：円)

収入の部				支出の部			
科目	2014年度予算	2013年度予算	差異	科目	2014年度予算	2013年度予算	差異
学生生徒等納付金収入	2,170,856,000	2,061,451,000	109,405,000	人件費支出	1,935,023,450	1,891,944,000	43,079,450
手数料収入	47,671,000	46,342,000	1,329,000	教育研究経費支出	516,021,000	511,896,000	4,125,000
寄付金収入	29,800,000	45,400,000	△15,600,000	管理経費支出	190,524,000	204,007,000	△13,483,000
補助金収入	1,027,188,000	919,910,000	107,278,000	借入金等利息支出	17,755,000	19,262,000	△1,507,000
(うち、国庫補助金収入)	334,368,000	162,590,000	171,778,000	借入金等返済支出	259,239,000	825,930,000	△566,691,000
(うち、地方公共団体補助金収入)	692,820,000	757,320,000	△64,500,000	施設関係支出	1,117,075,000	352,505,000	764,570,000
資産運用収入	16,367,000	17,785,260	△1,418,260	設備関係支出	58,209,000	123,814,000	△65,605,000
資産売却収入	0	200,000,000	△200,000,000	資産運用支出	214,817,000	197,335,000	17,482,000
事業収入	3,469,000	3,666,000	△197,000	その他の支出	24,618,000	31,635,679	△7,017,679
雑収入	50,923,000	33,802,000	17,121,000	〔予備費〕	30,000,000	30,000,000	0
前受金収入	360,850,000	357,600,000	3,250,000	資金支出調整勘定	△21,628,000	△35,618,000	13,990,000
その他の収入	1,116,233,000	855,533,702	260,699,298	当年度資金支出合計	4,341,653,450	4,152,710,679	188,942,771
資金収入調整勘定	△616,571,000	△444,227,000	△172,344,000	次年度繰越支払資金	911,751,438	1,046,618,888	△134,867,450
当年度資金収入合計	4,206,786,000	4,097,262,962	109,523,038	支出の部合計	5,253,404,888	5,199,329,567	54,075,321
前年度繰越支払資金	1,046,618,888	1,102,066,605	△55,447,717	当年度資金収支差額	△134,867,450	△55,447,717	△79,419,733
収入の部合計	5,253,404,888	5,199,329,567	54,075,321				

2014(平成26)年度 消費収支総括表

(単位：円)

収入の部				支出の部			
科目	2014年度予算	2013年度補正予算	差異	科目	2014年度予算	2013年度補正予算	差異
学生生徒等納付金	2,170,856,000	2,061,451,000	109,405,000	人件費	1,958,687,000	1,909,793,810	48,893,190
手数料	47,671,000	46,342,000	1,329,000	(うち、退職給付引当金繰入額)	44,658,000	25,350,810	19,307,190
寄付金	30,822,000	46,284,000	△15,462,000	教育研究経費	935,916,000	898,249,000	37,667,000
(うち、現物寄付金)	1,022,000	884,000	138,000	(うち、減価償却額)	419,895,000	386,353,000	33,542,000
補助金	1,027,188,000	919,910,000	107,278,000	管理経費	197,524,000	209,144,000	△11,620,000
資産運用収入	16,367,000	17,785,260	△1,418,260	(うち、減価償却額)	7,000,000	5,137,000	1,863,000
事業収入	3,469,000	3,666,000	△197,000	借入金等利息	17,755,000	19,262,000	△1,507,000
雑収入	50,923,000	33,802,000	17,121,000	資産処分差額	36,300,000	2,641,000	33,659,000
帰属収入合計	3,347,296,000	3,129,240,260	218,055,740	建物処分差額	36,000,000	0	36,000,000
基本金組入額合計	△1,229,465,000	△499,782,000	△729,683,000	図書処分差額	300,000	2,641,000	△2,341,000
消費収入の部合計	2,117,831,000	2,629,458,260	△511,627,260	〔予備費〕	30,000,000	30,000,000	0
				消費支出の部合計	3,176,182,000	3,069,089,810	107,092,190

2014(平成26)年度 東邦学園 事業計画

支出全体の約97%を占める。前年度比7,494万円増の見込みである。

支出科目で最も多い人件費は19億5,868万円で、前年度比4,889万円の増を見込んだ。退職金を除く人件費は、大学では賞与を4.5ヶ月(前年度4.5ヶ月+15万円)として職員分が減少するが、教育学部開設に伴う教員数増加により、大学全体では増える。高校は、賞与を5ヵ月(前年度5ヵ月+22.5万円)として計上する。

この結果、消費収入から消費支出を差し引いた当年度消費収支差額は、10億5,835万円の支出超過となり、前年度繰越消費収支差額を加味した翌年度繰越消費収支差額は、44億1,470万円の支出超過、経営指標とされる帰属収支差額比率は5.1%(前年度比3.2ポイント上昇)となる見込みである。

資金収支による収入は、前年度比1億952万円増の42億678万円となる見込み(2.6%増)。増加要因は、減価償却特定預金の取り崩しと、耐震改修工事に係る補助金2億円である。2013年度と同様にキャンパス整備工事の特殊事情がある。

その他の収入が多額にのぼるのは、施設設備更新のため過年度に特定資産として積立ててきた減価償却特定預金を、

今年度特定資産から一般資金に繰入れるためである。資金収入調整勘定は前年度と今年度の退職者の差から生じる退職金財団交付(給付)金による期末未収入金と、大学の耐震改修工事に係る補助金も、実際には次年度にならないと入金しないため、期末未収入金として計上するためである。

資金支出は、前年度に比べ1億8,894万円多い43億4,165万円となる(4.38%増)。教育研究経費と管理経費は、今年度それぞれの学校にて立案している事業計画の実施に伴う経費の計上によるものである。

資金収支特有科目での要因は、借入金返済支出の増、施設設備関係支出の増と資産運用支出の増によるものである。借入金返済支出増の主な要因は、大学のキャンパス第1期工事費支払のつなぎ融資5億円の返済支出である。施設関係支出はキャンパス第2期工事費用による増加、設備関係支出は前年度に情報機器更新があり、それに比較し減少となるものの新棟設備の費用を計上した。一方、資産運用支出は対前年1,748万円増の2億1,481万円となり、主な要因は、減価償却特定預金への繰入支出である。

学園全体の次年度繰越支払資金は、2013年度の10億4,661万円から1億3,486万円減少し、9億1,175万円となる見込みである。

学園の人事構成

【2014年7月1日現在】

本年度の学園の人事構成は下記の通りです。

◆理事・監事・評議員

理事 長：榊 直樹
 理事 事：成田 良一、長沼 均俊
 古市 久子、村田 悟
 塩澤 敏明、加藤 明彦
 木岡 一明、増田 貴治
 監事 事：川竹 敬三、鈴木 基仁
 評議員 員：小野 隆生、古市 久子
 澤田 節子、堀田 時弘
 村田 悟、佐々木 泰裕
 水谷 光博、蔡 賢治
 戸谷 正行、森川 早苗
 塩澤 敏明、高山 仁惣
 松浦 さくら、島原 東
 大矢 正成、大矢 郁夫
 岩田 雅明、柴田 長兵衛
 遠山 真人、下出 啓介
 嶺木 昌行

◆法人事務局

法人事務局 長：増田 貴治
 法人事務局 次長：堀田 時弘
 法人事務局 課長補佐：池田 暁生
 広報 課 長：西 弘美
 広報 課 長補佐：奥田 緑
 以下大学同役職兼ねる
 企画 課 長：西 弘美
 総務 課 長：二宮 加代子
 経理 課 長：柴田 千登勢
 総務 課 長補佐：藤川 久孝
 総務 課 長補佐：三輪 哲也

◆大学

学 長：成田 良一
 学 長 補 佐：浅生 卯一
 学 長 補 佐：増田 貴治

経営学 部 長：小野 隆生
 経営学部 地域ビジネス 学科 長：高木 靖彦
 人間学 部 長：澤田 節子
 人間学部 人間健康 学科 長：葛原 憲治
 教育学 部 長：古市 久子
 教育学部 子ども発達 学科 長：後藤 永子
 図書館 長：山極 完治
 情報システムセンター 長：高木 靖彦
 学修支援センター 長：中山 孝男
 学修支援副センター 長：矢内 淑子
 地域創造研究所 長：御園 慎一郎
 入試 委員 長：杉谷 正次
 教務 委員 長：葛原 憲治
 就職 委員 長：橘 廣
 学生 委員 長：矢内 淑子
 図書館 委員 長：山極 完治
 情報システム 委員 長：高木 靖彦
 地域国際交流 委員 長：御園 慎一郎
 総務 委員 長：堀 篤実

◆大学事務局

事務 長：増田 貴治
 事務 次 長：堀田 時弘
 齋藤 周一
 教務 課 長：藤井 玲子
 学生 課 長：二宮 加代子
 学術情報 課 長：藤井 玲子
 I R 推 進 課 長：西 弘美
 入試 広報 課 長：長沼 英樹
 就職 課 長：長沼 英樹
 教務 課 長 補 佐：新村 健
 教務 課 長 補 佐：貫名 正樹
 教務 課 長 補 佐：山際 史子
 学生 課 長 補 佐：阪口 将史
 学術情報 課 長 補 佐：黒柳 好子
 学術情報 課 長 補 佐：富田 敦史

学術情報 課 長 補 佐：山田 智代
 入試 広報 課 長 補 佐：奥田 緑
 入試 広報 課 長 補 佐：太田 勉

◆高等学校

校 長：長沼 均俊
 学 内 理 事：村田 悟
 教 頭：佐々木 泰裕
 藤本 紀子
 渡邊 素幸
 校 務 部 長：寺島 多岐夫
 教 務 部 長：岡本 洋美
 生活 指導 部 長：山田 博子
 広報 企画 室 長：平上 純一
 進路 指導 主 事：森田 美樹
 国際 交流 室 長：伊藤 保憲
 メディアセンター 長：川邊 雅志
 保健 指導 主 事：船水 昭宏
 生徒 会 正 顧 問：水谷 光博
 事 務 部 長：袴田 克彦
 学年 主任 第1 学年：高倉 清文
 学年 主任 第2 学年：桜井 秀樹
 学年 主任 第3 学年：濱砂 孝
 学科 主任 商業 科：山本 俊秋
 学科 主任 美術 科：岡本 増吉
 コース 責任 者 文理 特 進：稲葉 益夫
 教科 主任 国語 科：松永 早苗
 社会 科：志水 和史
 数学 科：宮田 賢二
 理 科：古谷 嘉
 保健 体育 科：横井 由弦
 芸術 科：加藤 広士
 英語 科：平岡 広子
 家庭 科：田中 瑞穂
 商業 科：大橋 由紀

キャンパス短信

法人 「21TOHO教育充実事業募金」 ～ご協力に深謝～

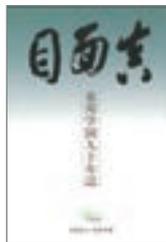
21TOHO教育充実事業募金事務局

学園では教育環境整備、施設設備の充実、教育研究活動の奨励に取り組むため、21TOHO教育充実募金活動を展開しております。これまでも多くの方々から多額の募金を頂戴し、高校新校舎の建築や大学新学部の増設およびグラウンド新設のための資金として運用させていただきました。現在もさらに充実したキャンパス空間を具現化すべく、最新の設備を整えた大学新棟を建設しているところです。皆様方からのご支援に対しては、「人格教育」を重視する建学の精神に立った21世紀に有意な人材を育て、卒業生が実業界をはじめ各界で活躍することで恩返しさせていただきたいと考えております。

なお、募金についての要項ならびに寄付金の免税措置につきましては、大学・高校の各ホームページにも掲載しております。今後ともご理解を賜り、ご賛同をいただけますよう衷心よりお願い申し上げます。

法人

東邦学園90年誌 刊行



学園の90年誌が完成しました。1923年の創立から現在までの歩みや学園事業計画が盛り込まれ、随所にコラムと写真が入って読みやすく仕上がりました。

高校

『クエストカップ』2年連続出場

2月22日、東京の法政大学市ヶ谷キャンパスにて『クエストカップ2014全国大会』が開催され、本校は2年連続の全国出場を果たしました。この大会は、全国60校1万人の生徒が探究型の学習プログラム「企業探究」の学習成果を発信する場で、今年は1,260を超える作品から選ばれた48作品のチームが全国のステージに立ちました。

発表した本校商業科1年(粟飯原・金子・早川・藤原・松尾)のチームは、企業からのミッションに対してよく調査分析し、現実的で論理的なアイデアを練り上げました。また、その堂々としたプレゼンテーションにも審査員から高い評価を受けました。

教員の書籍紹介



荒川 紘・山極 完治・澤田 節子・古市 久子・西崎 有多子 共著

「ならぬことはならぬ」

江戸時代後期の教育を中心として

唯学書房

地域創造研究所寺子屋研究会は2年前に『江戸時代の教育を現代に生かす』という本を出版しており、これはその第2弾です。

教育には「ならぬことはならぬ」普遍的な育ちの理念があり、それを大切にせず教育を考えてきたことに、現代教育の危うさがあります。この本は現代の教育に悩む人に読んでいただきたい一冊です。



猿田 正機 編著

杉山 直・浅野 和也・

宋艶 蓉・櫻井 善行 共著

「逆流する日本資本主義とトヨタ」

中京大学企業研究所

本書のテーマはトヨタ自動車の労働実態への接近です。「働き方」「労使関係」「雇用管理」「社会的責任」「労働運動」の視点から、トヨタ労働者の働き方がどのような問題を内包しているのか、分析しています。



浜口 博文 編著

照屋 翔大・大野 裕己・

山下 晃一・笠沙 知章 共著

「アメリカにおける

学校認証評価の現代的展開」

東信堂

アメリカにおいて既に100年以上の歴史を持つ、認証評価 (accreditation) 制度が学校改善にどのように活かされているのか、それが本書のテーマです。近年では日本でも、学校評価ということが声高に叫ばれるようになってきました。私たちよりも長い取り組みの歴史を持つ実践に学びながら、これからの日本の学校をより良くしていく方策や知恵を探りました。

地域創造研究所

総会・定例研究会を開催

2014年度地域創造研究所第14回総会・懇親会と第43回定例研究会を5月20日(火)に開催しました。

総会の前に地域創造研究所叢書21号刊行記念として第43回定例研究会(企画：名東の寺子屋研究部会)を開催しました。

2年間に亘る研究成果を叢書にまとめ『ならぬことはならぬ～江戸時代後期の教育を中心として』(唯学書房 2014.3)のタイトルで出版しました。執筆を担当された本学の古市久子氏(教育学部教授)、山極完治氏(経営学部教授)、澤田節子氏(人間学部教授)、西崎有多子氏(教育学部准教授)からそれぞれ研究報告をしていただきました

た。先人たちが残してくれた教育への思いを今一度考えることができ、現代の教育に役立てたいとの思いが伝わってくる



定例研究会の様子

研究会でした。叢書を是非ご一読ください。

その後総会が開催され、2013年度事業結果と2014年度事業計画が報告されました。総会後の懇親会では学内外の研究所関係者が集い和やかなうちに閉会となりました。

研究所の行事予定

◎2014年度第1回「減災研究会」(予定)
日時：10月4日(土)14:00～16:00
会場：津島市文化会館小ホール

◎「地球のステージ3 & 震災篇」
日時：2015年1月17日(土)14:00～

「フレンズ・TOHO」は、みなさんをお待ちしています！

「フレンズ・TOHO」事務局

「フレンズ・TOHO」では、様々な催しや交流の場を設けています。会員さんはもちろんですが、会員さんでない方にも、是非、参加していただきたいと思っています。

興味のある方、参加してみたい方は、フレンズ・TOHOまでご連絡ください。お待ちしております。

フレンズ・TOHO事務局
TEL: 052-782-1241
Mail: friends@aichi-toho.ac.jp

先日、「フレンズ・TOHO」総会記念講演会で、名古屋グランパスエイト栄養アドバイザーの森裕子さんのお話をお聞きしました。「Jリーガーから学ぶ 健康に過ごす為の食事選び」と題された講演は、実にわかりやすく、また納得できる講演でした。

「Jリーガーから学ぶ…」とあり、何か特別なことをしなければならぬのか…と思って聞いて

いたのですが、大違いで、私たちが、毎日、ちょっとした注意や工夫をすることで「健康に過ごす食事」が摂れることがよくわかりました。「和食の力」「野菜の力」「果物の力」などなど、より多くの人たちにお伝えしたい内容でした。

今後も、こうした企画を充実させていきたいと考えております。是非、ご参加ください。

《夏の企画》

その1.「明知鉄道 寒天列車の旅」8月23日(土・予定)
ただ今、計画中！夏のひと時、「寒天料理を食べながら」楽しい旅を楽しみませんか？

現在、企画中です。関心のある方、是非、お問い合わせ下さい。

その2.「親子理科実験教室」と「親子スイーツ講座」
恒例となりつつある「親子理科実験教室」「親子スイーツ講座」。

昨年も参加された方々に大いに楽しんでいただきました。「今年はいったい何が体験できるの？」「何をつくるの？」……是非、期待して待っていて下さい

邦友会(大学同窓会)育英奨学金のご案内

邦友会(大学同窓会)では、勉強や課外活動に積極的に参加し、就学の意思がある学生に対して、育英奨学金を給付しています。

応募資格は愛知東邦大学の学生で、卒業生の子

どもやきょうだいという条件はありますが、在学中に一回給付資格があります。2002年に設立してから、年々給付資格者が増えてきているということは、大変喜ばしいことだと思っています。

心当たりのある方は大学学生課にお問い合わせください。

愛知東邦大学

経営学部 地域ビジネス学科
人間学部 人間健康学科
教育学部 子ども発達学科



オープンキャンパス へ行こう!!

7/26(土)・7/27(日)
8/7(木)・8/24(日)
9/28(日)・10/18(土)

- いずれも10:00スタート
- 地下鉄一社駅から送迎バスあり

【お問い合わせ】

愛知東邦大学 入試広報課
TEL: 052-782-1600

東邦高等学校

普通科(文理特進・普通・人間健康)
美術科

- ♪美術科夏期講習会 7/29(火)、7/30(水) 9:00~15:00 ※要申込
- ♪普通科夏休み1日体験セミナー 8/5(火)、8/6(水) 午前、午後の2回開催 ※要予約
- ♪吹奏楽部体験講習会 8/20(水) 13:00~15:00 ※要申込
- ♪部活動見学会 8/28(木) 10:00~12:00 ※要申込
- ♪文化祭 9/27(土) 10:00~
一般:要チケット、中学生:制服生徒手帳
- ♪学校説明会 10/25(土)、11/15(土)
11/29(土) いずれも10:00~12:00
- ♪未来の芸術家たち展
10/21(火)~10/26(日) 名古屋市博物館にて
※入場無料
- ♪美術科説明会 10/25(土)10:30~
- ♪中学生英語スピーチコンテスト
11/3(月) 9:00~13:00 ※要申込



【お問い合わせ】 東邦高等学校 TEL: 052-782-1171(代)



名東区民まつり

(5月11日(月) 東邦高校で開催)

